

# ぽぽデイだより NO.127 令和5年9月号

社会福祉法人 ほっとスマイル  
ぽぽデイ名塩駅前 669-1133 西宮市東山台 1-1(1階) TEL0797-62-1165

## 施設長より

9月になったというのに、相変わらず暑い日が続きます。気候変動で日本は四季が二季になるとか。美しい季節の春や秋が無くなりつつあるそうです。そんな未来に不安を感じながらも、9月2日に開催された「にしのみやフォーラム」に参加してきました。

午後に参加した6分科会は「西宮の未来を考える」というテーマ。2040年の日本は少子高齢化がピークを迎え、人口減少に直面します。しかしポジティブ思考で、自分たちにある力を再確認し、これからの20年でできることを考える、というもの。西宮で活躍されている3名の登壇者の実践報告は、さまざまな年代、性別、特性を「まぜこぜ」にして強みにしようという共通項でまとめられました。一番印象的だったのは学校給食センターの配送を行っている金田運輸社長のお話でした。男性ばかりの運送会社にアルバイトで入職した短大生が、やがて社長になり、男女や老若の垣根を壊して、それぞれの特性に応じた仕組みを作っていったとのこと。女性も軽トラックで配送を担ったり、70歳を超えても検品やパンのクラス分けなどに異動して働き続けたりしている。また、余剰食材を子ども食堂に寄付できるよう西宮市にかけあってきたことや保護司として人生のやり直しに寄り添っていることなどを話されていました。とてもパワフルで、問題解決能力に優れた人でした。バリバラでおなじみの玉木幸則氏がインクルーシブを「まぜこぜ」と言い替え、実はすでにみんな気づいていないかも知れないけれども、すぐ隣には障害者、被差別部落出身者、在日外国人、LGBTQの人たちがいるんだ、と助言をされました。

「まぜこぜ」という言葉の最初の発信者は、全体会の講演者でケーキハウスツマガリの社長、津曲孝氏です。津曲氏は、親がおらず、成績は1と2ばかりの通知表だったが、祖母が「おいっちにおいっちに」と笑い飛ばしてくれ、「あんたの良いところはいつもご機嫌さん」と言われていたとのこと。そこから、頭が悪くてもいい、障害も「まぜこぜ」に、ご機嫌さんで働くという考えに至った、とのことでした。

最後にコーディネータの藤井博志教授(関西学院大学)が、「2040年はすぐに来る。多世代・多文化共生が必要だが、実は日本は、知らない人に親切にするという割合が世界でもとても低い国。親切にするのは知っている人にだけ。私たちには区分けが内在化されている。私たちひとり一人が、この区分けを解放することが必要。」という問題提起をされました。

一連の講演やお話を聞きながら、私は常にぽぽデイの子どもたちのことを考えていました。この子達の明るい未来と重い現実。しかし、ポジティブに。「まぜこぜ」をつくるために私たちができることは？分科会終了後、コーディネータを務められた藤井先生に質問すると「ぽぽデイの使命を全うすること」と明確な答えがありました。「障害や特性別に分けたりせず、まぜこぜと一緒に過ごす。お互いのことを認めたり、摩擦があったり、時にはスルーしたりしながら、付き合い方を学び絆ができてい

く。」それがぼぼデイです。しかし、言うは易し。支援者は子どもたちのトラブルのたびに、何度も葛藤します。短時間で少人数に区分けする方が問題は少ない。時には、子どもの利益にならないと判断して一時的に場所を分けて過ごすことを提案することもあります。やはり「一緒に過ごす」のは、ぼぼデイの方針です。子どもたちは、大人を安心基地としながら、自分で場所や相手や遊びを決めています。卒業するころには、相手に応じた自分なりの対応を身に着け、しかし同じ時間を共有した親しい人たちに変わっています。

子どもの成長を励みに、これからも「ませこぜ」を大切に、使命を全うしていこうと思います。

## 児童発達支援 いちご組

この夏、石鹸・泡あそび、色水あそび、寒天感触あそびを楽しまれる中で、『見る』『聞く』『触る』『発見する』『感動する』…一人ひとりの色々な表情をたくさん見せて頂きました。そのあそびの過程の中で、そのお子様が着目される場面、夢中になられる場面は、一人ひとり違っていました。私たち大人以上に、発見され、感動され、大人と一緒に『この瞬間を一緒に見て欲しい』気持ちでいっぱいな姿をたくさん届けてもらいました。夏の厳しい暑さが、少しづつ落ち着いてくる、この季節。近隣の公園へ出かけ、戸外での発見・感動を楽しんだり、行き帰りの道中、粗大あそびの要素(階段の上り下り、傾斜のある道など)も楽しみながらあそびたいと思います。

水分補給・休息を十分に取り入れながら、健康にあそび、すごしていきたいと思います。

## 放課後等デイサービス

夏休み、多くのお子さんがゆったりと羽を伸ばして過ごすことができたのではないかと思います。放課後等デイサービスでは、曜日によっては小学生から高校生まで同じ部屋で過ごしています。多くのお子さんが羽を伸ばして過ごす中、将来に向けて一生懸命受験勉強に励む高校生もいました。人生で一番努力しているのではないかとというくらい、日々努力する姿は、とても素晴らしかったです。小学生のお子さんの中には、2学期の行事について考えていることを職員に話しながら新学期への意識をされているおこさんもいました。不安に思っていることを大人に伝えながらも、どうにか不安を払拭して前に進みたいという気持ちが伝わってきました。年齢や状況によって個々で感じることはそれぞれですが、未来に向かって歩まれるお子さんの姿を見ることができました。2学期もお子さんのがんばりや楽しいを応援したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## スタッフの一言

「夏休み何してたの？」との質問に、目を輝かせながらお話してくれるお子さんたちから、夏休みの楽しさが伝わってきます。ここで、私の夏休み孫との思い出ベスト3

- ① 花火大会 音が大きくて大泣き、、、
- ② お家で夏祭り 屋台を作って、焼きそば、たこ焼き、から揚げ、枝豆…お店屋さんごっこで大盛り上がり
- ③ 私の大好きなかき氷を食べに…小さな怪獣にあっという間に食べられて、涙。。。そんな楽しい夏休みでした。

中山

この夏の遊びの一場面、一人のお友達がかくれんぼをしたいとみんなに声をかけると、中高生もこころよく参加してくれて、みんなでかくれんぼの開始です。各々が色々な所に隠れ、大好きな高校生も体を小さくして隠れます。「もういいかい」「まーだよ」と声が響き渡り、楽しい時間が流れていました。

笹川